

常照

第855号

憧れの小樽

先日ニュースを見ていたら、小樽が特集されていました。今では船見坂以外にも銭函の海岸や朝里駅、天狗山のロープウェイと、いろんな所に人が押し寄せては撮影しているようです。日が暮れてオレンジ色のガス灯に照らされた運河と倉庫街。水路に沿って倉庫が並ぶレトロな風景。たしかに小樽は映画やドラマに映える素敵な街並みです。画面越しに見れば住ん

でいる私でもうっとりします。また近頃は雪景色を見ようと路地や個人宅の庭にまで立ち入るようです。せめて行儀よく観光してください。たらと願うばかりです。

とはいえ私も旅番組で国内外の名所を見ては、いいなあと憧れます。思えば子どもの頃のクイズ番組の豪華商品は夢のハワイ旅行でした。あの頃の私たちみたいに日本に、北海道に、小樽に『憧れ』を抱いてくださっているなら光栄なことではあります。

憧れの場所

しかし小樽の観光客が増えたからと言って、お寺のお賽銭が増額したとか、お参りが増えたとか、そんな話も聞きません。お寺の伽

藍や荘厳なんて本当に立派なもので一見の価値はあるはずです。特に真宗のお寺の本堂は、極楽浄土をイメージして造られています。昔の人はご法座に集まり、本堂に座り、死後の話、後生の一大事、お浄土の話に一生懸命に耳を傾けたものです。少し変な表現かもしれませんが、みなさんお浄土に憧れ、お浄土に思いを馳せてくださっていたのではないのでしょうか？

お浄土への憧れというと、突拍子もない言い方かもしれませんが、ト教圏、中世のヨーロッパでも文字が読めない多くの庶民のために絵画や造形美術を用いて天国の美しさや地獄の恐ろしさを伝えてきました。地獄の恐ろしさを目の当

たりにして天国に行きたいと思つたことでしょう、そこから信仰心も芽生えたと思います。あるいは治安の悪い地獄のような環境で生きていけば、生まれ変わって今よりも良い所へ、なんて憧れもあったのかもかもしれません。

昨今はそれを逆手に強迫観念を植えつけて不安や恐怖を煽り、洗脳やマインド・コントロールを行う手法を用いた勧誘が新興宗教や詐欺の常套手段になっています。判断ができないほどに情報を遮断したり絶望を与えることは問題があります。悪いことをしたら地獄におちるかもしれないと誰もが信じていた時期があるはず。しかしお互いに、地獄なんてあるもんか：と今は思つてませんか？

地獄の行き方、生き方

親鸞聖人の語録ともいわれる歎異抄の一節には「地獄は一定（いちじょう）すみかぞかし」とあります。すみかとは住处。であり、ここでは往きつく先という意味でしょう。親鸞聖人は、そんな生き方しかしてこなかったと仰るのです。しかし私は、そんなに悪い事をして自覚はありません。

ところが明治から昭和の中頃に活躍された真宗の僧侶、曾我量深さんは「浄土は言葉のいらぬ世界である人間の世界は言葉の必要な世界である」地獄は言葉の通じぬ世界である」と教えてくださいました。私も言葉の通じない世界だ、と実感する事があります。だとすればこの世を地獄のようにしてい

るのは他でもない私自身かもしれない。しかもそれに気づかない、仏教はおろか他人の話にも好んで耳を傾けない。もしかして私は地獄に住まいしているのでしょうか？

三月二十日、春彼岸中日

今年は三月二十日が春分の日、その前後三日間を併せた一週間が暦の上での春のお彼岸です。彼岸はもともと、インドの原語「パールミター」（波羅蜜多）が語源であり、漢訳すると「到彼岸」となります。古来より仏教は迷いの世界からさとりの境界へ向かうにあり、この世を「此岸（しがん）」、「さとりの境界を「彼岸（ひがん）」と呼び、故人のいる世界を彼岸と

認識していました。

また一年の中でも特に春分と秋分は、太陽が真東から登り真西に沈むことから、朝日が昇る東の方向に命の誕生を見つめ、夕日が沈む西の方向に命が終わる死を感じてきました。移りいく人生、夕日の沈む先に人生の最後を見て、阿弥陀さまの西方極楽浄土を思い浮かべ、憧れ、願われたのです。

雪解けすすむこの季節、お寺に、あるいは納骨堂に顔を出すには良い時節です。私たちの先祖は、太陽の沈んで行く先に浄土を思い浮かべお彼岸を勤めたのでしよう。どうぞお寺へお参りください。ご先祖が憧れた、ご先祖の生まれていったお浄土の話に耳を傾けましょう。

南無阿弥陀佛 合掌

四月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 四月七日(月)～十一日(金)

東海教区員弁組常満寺

講師 梅山 曉師

○後期 四月十三日(日)～十六日(水)

北海道教区釧路組西光寺

講師 八村 幸代 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を
して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、
ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気
実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (〇三三) 二二一〇七四四番
FAX (〇三三) 二二九一四〇八〇番
テレホン法話 二七一一六一六番